

前橋市観光ビジョン（素案）に関する

パブリックコメントの結果について

令和8年8月26日
前橋市産業経済部観光政策課

前橋市観光ビジョン（素案）について、市民の皆様からご意見を募集したところ、下記のようなご意見をいただきました。誠にありがとうございました。

なお、公表にあたっては取りまとめの都合上、ご意見を案件ごとに集約させていただきました。

1 意見募集期間

令和8年6月29日（月）から令和8年7月26日（日）まで

2 意見提出状況

（1）意見提出者数： 7 人

（2）意見提出件数： 14 件

（3）意見の内訳

区 分	項 目	件数
対応1 (補足修正)	意見を踏まえて素案を補足修正または追加記載したもの	2 件
対応2 (既記載)	既に意見の趣旨、考え方を盛り込んでいる、あるいは同種の記載をしているもの	5 件
対応3 (説明・理解)	市としての考え方を説明し、理解いただくもの	3 件
対応4 (事業参考)	素案には盛り込めないが、事業実施段階で考慮すべき事項として今後の参考とするもの	4 件
合 計		14 件

なお、取りまとめの都合上、いただいたご意見を要約して、市の考え方を説明しています。

第1章 観光ビジョン策定のための検討

No.	意見の内容	市の考え方
1	前橋市域に含まれる赤城山山頂部から南麓地域にかけては、豊かな自然に加え、歴史に根ざした魅力ある文化や風習が数多く存在するが、市民がそれらを知り、体験する機会は十分とはいえず、案内・指導できる人材を継続的に育成する機関や仕組みも整っていない。	観光資源の魅力を来訪者に伝えるためには、それを理解し発信できる人材の育成が重要であると認識しています。本ビジョンでは「前橋市民総アンバサダー（宣伝大使）化」や受入環境整備を位置付けており、いただいたご意見は今後の施策検討の参考とさせていただきます。
2	市街地の各施設や歴史・文化については、『前橋学市民学芸員』の養成などにより人材育成が進められているが、活動内容や範囲が限られており、十分に機能しているとは言い難い。 このような人材を観光政策課でも共有・活用できないか。	前橋学市民学芸員制度は地域の歴史・文化に関する知識を有する貴重な人材であると認識しています。本ビジョンにおいても、関係団体や市民との連携による観光振興を推進することとしております。引き続き、いただいたご意見も参考に文化国際課とも連携してまいりたいと考えております。
3	前橋駅や赤城山などの観光案内所は十分に機能しているとはいえず、観光客や登山客が求める情報提供が十分に行われていないため、人材不足・情報不足・設置場所の不適切さが懸念される。	本ビジョンでは「受入環境整備（ホスピタリティの向上）」を施策として位置付けており、いただいたご意見は今後の施設運営や情報発信の充実に向けての参考とさせていただきます。
4	スポーツ資源（ザスパ群馬、群馬グリーンウィングス、ホワイトバニーズ、前橋育英高校）や宿泊施設（スノーピーク）、地域特産資源（JINS）、歴史・文化資源（鈴木貫太郎、糸井重里、あだち充）、レジャー施設（ほぼの駅 AKAGI）を観光資源として追記する。	ご意見を踏まえ、「ザスパ群馬」及び「ほぼの駅 AKAGI」を観光資源の例示として追記し、「スノーピーク」については、「キャンプ場」に含まれるものと整理しています。その他のご提案については、今後の観光動向や誘客効果等を踏まえながら見直しの際の参考とさせていただきます。
5	「赤城山は山頂から南麓にかけて「赤城山から望む雲海」をはじめとする様々な表情を見せます。」と修正していただき、「赤城山から望む雲海」をイラストに挿入していただきたい。	ご意見を踏まえ、赤城山の魅力をより分かりやすく伝えるため、「赤城山は山頂から南麓にかけて『赤城山から望む雲海』をはじめとする様々な表情を見せます。」と修正するとともに「赤城山の雲海」を、イラストとして挿入します。

6	前橋市の観光地としての認知度向上を課題として整理すべきであり、赤城山の認知度と前橋市の観光ブランド力は必ずしも同一ではなく、より客観的な分析が必要である。あわせて、観光スタイルの多様化として、映画・ドラマのロケ地巡りや「前橋ウィッチーズ」の聖地巡礼などを記載し、新たな観光需要の取り込みや誘客につなげるべき。	赤城山は日本百名山の一つであり、本市の強みとして位置付けています。一方で、「前橋独自のブランドが確立されていない」ことを弱みとして整理しています。また、観光スタイルの多様化については、今後の観光コンテンツ造成や情報発信の参考とさせていただきます。
---	--	---

第2章 観光ビジョンの基本的な方針

7	スローシティを基盤に、市民や観光客が対話や交流を重ねながら地域の魅力を共創し、時間をかけてまちを育てていく観光まちづくりを進めるべき。完成形をあらかじめ固定するのではなく、多様な主体が関わる余地を残すことで人の動きや愛着を生み出し、関係人口の創出や移住促進につなげることを期待する。	本ビジョンでは、市民や事業者、関係団体、行政など多様な主体の連携による観光振興を重視しており、「シビックプライド醸成」や「前橋ファンづくり」を通じて、市民と来訪者が継続的に関わりながら前橋の魅力を共に育み、関係人口の創出や持続可能な地域観光の実現を目指しています。
8	市民が地域に誇りを持ち、その魅力を発信していくことは、交流人口の増加や地域経済の活性化につながる大切な取り組みだと思います。一方で、観光地化による交通や生活環境への影響には十分配慮し、市民生活との調和を大切にしたいです。	ご意見のとおり、市民が地域に誇りを持ち、その魅力を発信していくことは本ビジョンにおいても重要な考え方として捉えております。なお、今後、本ビジョンの推進にあたっては、市民生活への影響に配慮して施策を進めてまいりたいと考えております。

第3章 観光ビジョンの展開

9	「稼ぐ」という表現には少し違和感があり、観光の目的は利益だけではなく、前橋の魅力や価値を高め、人とのつながりを育み、その結果として地域経済が豊かになることだと思います。「価値を生み出す」「地域を元気にする」といった表現の方が、市民にも共感されやすいのではないのでしょうか。	本ビジョンにおける「稼ぐ」とは、観光客を地域に呼び込み、観光による経済効果を地域内に循環させ、持続可能な地域観光につなげることを意味しており、「シビックプライド醸成」や「前橋ファンづくり」を通じて、地域への理解や愛着を深める取組を推進してまいります。
---	--	---

10	前橋市は稼ぐ産業が少ないように感じるので、資源を活かし、稼げる仕組み作りをお願いします。	本ビジョンでは「稼ぐコンテンツを創る」を施策に位置付けており、地域資源の価値を活用し、より多くの経済効果が生み出せる仕組みづくりに努めてまいります。
11	前橋市の観光資源に精通した人材育成を進め、育成した人材を観光案内やイベント運営、情報発信などに活用し、「前橋市民総アンバサダー（宣伝大使）化」の実現に向けた具体的な仕組みづくりや活動基盤の整備を進める必要がある。	市民が地域の魅力を学び、発信し、観光に主体的に関わることが重要であることから「前橋市民総アンバサダー（宣伝大使）化」の実現に向けての環境づくりを目指していきます。
12	前橋市単独での誘客には限界があるため、県内観光地との広域連携を推進するとともに、赤城山や前橋駅前ケヤキ並木通りなどの観光資源の活用において群馬県との連携体制を明確に位置付けるべき。あわせて、県都前橋の活性化に向け、群馬県との協力関係をビジョン上でも明示すべき。	観光振興を進めるうえでは群馬県や県内観光地との連携は必要であると考えていることから、広域周遊や相互送客の推進を位置付けています。なお、本ビジョンは前橋市の観光施策の方向性や推進体制を示すことを目的としているため、推進体制等への群馬県の追加記載は行いませんが、今後も関係機関と連携しながら観光振興を推進してまいります。
13	観光振興においては、景観や施設といった「もの」だけでなく、地域の人々による活動や交流などの「こと」を観光資源として活用し、体験型コンテンツ等を通じて、観光客の満足度向上や関係人口の創出につなげ、「創る」「共感する」の実現に向け、「こと」の観光資源化と受入環境の整備を推進すべきだと思います。	本ビジョンでは、観光コンテンツの創出や前橋ファンづくり及び受入環境の整備を施策として位置付けており、地域ならではの体験型コンテンツの充実を図ることとしています。また、来訪者との交流を通じて地域への理解や愛着を深め、関係人口の創出を目指していきます。

概要版

14	観光資源を収入に変えることに反対は しませんが、県有林で守られてきた環境 を一方的に開発することは反対です。そ こに根付いている環境資源を知った上 で環境に負荷をかけず、生態系が次世代 にしっかり送れることを最優先に据え、 造り過ぎない余白を残す取り組みにし て欲しいです。	ご意見のとおり、赤城山をはじめとす る豊かな自然環境は、将来にわたり保 全していくことが重要であると認識し ています。本ビジョンが目指す「持続可 能な地域観光」は、自然環境との共生が 必要であり、今後の事業推進にあたっ ても環境への配慮を十分に行いながら 進めてまいります。
----	--	--